



学年		クラス		氏名	
----	--	-----	--	----	--

ある店で弁当を販売しています。この店では、弁当を店内で食べることもでき、持ち帰ることもできます。それぞれで右の表のように値段が異なります。ただし、弁当 1 個の値段には消費税が含まれています。

- (1) ある日、A 弁当を 200 個用意したところ、その日のうちにすべて売り切れ、A 弁当の売り上げの合計金額は 87344 円でした。『持ち帰り』として売れた A 弁当の個数を求めなさい。

	A 弁当	B 弁当
店内で食べる	440 円	550 円
持ち帰り	432 円	540 円

- (2) (1)とは別の日に、A 弁当と B 弁当をあわせて 200 個用意したところ、すべて売り切れました。『店内で食べる』として売れた A 弁当と B 弁当の個数は同じで、それぞれ 50 個以上 70 個以下売れたことが分かっています。『持ち帰り』として売れた A 弁当と B 弁当の個数の比は 8 : 5 でした。
- ① 『店内で食べる』として売れた B 弁当の個数は何個ですか。
- ② この比の B 弁当の売り上げの合計金額は何円ですか。



学年

クラス

氏名

解答・解説

【解答】

- (1) 82 個
 (2)① 61 個
 ② 49750 円

【解説】

(1) つるかめ算で考えて解きます。

すべてを店内で食べたとすると $(440 \times 200 =)$ 88000 円ですが、実際には 87344 円なので、
 $(88000 - 87344 =)$ 656 円安くなります。A 弁当は 1 個あたり $(440 - 432 =)$ 8 円安いので、『持ち帰り』
 として $(656 \div 8 =)$ 82 個売れたことになります。

(2)① 『店内で食べる』として売れた A 弁当と B 弁当は合わせると $(50 \times 2 =)$ 100 個以上 $(70 \times 2 =)$ 140
 個以下で、しかもその合計数は必ず偶数です。また、『持ち帰り』として売れた A 弁当と B 弁当の個数
 の比が 8 : 5 であることから、『持ち帰り』の合計は 13 の倍数になっています。『店内で食べる』とし
 て売れた A 弁当と B 弁当の合計が偶数であることから、『持ち帰り』として売れた A 弁当と B 弁当の合
 計も偶数です。よって、『持ち帰り』として売れた A 弁当と B 弁当の個数の合計は $(13 \times 2 =)$ 26 の倍
 数であることが分かります。

以上より、『店内で食べる』として売れた A 弁当と
 B 弁当の合計と『持ち帰り』として売れた A 弁当と

店内で食べる	174	148	122	96
持ち帰り	26	52	78	104

B 弁当の合計との関係を表にまとめると右の表のようになり、条件を満たす『店内で食べる』として
 売れた A 弁当と B 弁当の合計は 122 個であるとわかります。よって、『店内で食べる』として売れた A
 弁当の個数は $(122 \div 2 =)$ 61 個です。

- ② ①より、『店内で食べる』として売れた B 弁当の個数は $(122 \div 2 =)$ 61 個で、『持ち帰り』として
 売れた B 弁当の個数は $(78 \div 13 \times 5 =)$ 30 個なので、B 弁当の売り上げの合計は、
 $(550 \times 61 + 540 \times 30 =)$ 49750 円です。